

別紙資料3

〇〇学校における暑さ指数（WBGT）を用いた活動判断

暑さ指数 (WBGT 数値) 乾球温度(目安)	日常生活における 熱中症予防指針 (日本生気象学会)	熱中症予防のための 運動指針 (公財)日本スポーツ協会)	学校の対応
WBGT 33℃以上 (運動は中止)	活動する区域に熱中症警戒アラートが発表された時(翌日の暑さ指数(WBGT)が 33℃以上になると予測された場合は、活動場所での暑さ指数を確実に測定する。		
WBGT 31℃以上 危険 (運動は原則中止) ※プールについては P.10 を参照	外出はなるべく避け、涼しい室内へ移動する。	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合は中止すべき。	屋内外で身体を動かす活動は、原則中止
WBGT 28~31℃ 嚴重警戒 (激しい運動は中止)	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10~20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人※4は運動を軽減または中止	激しい運動や持久走など体温の上昇しやすい運動は中止。
WBGT 25~28℃ 警戒 (積極的に休憩)	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。	熱中症の危険度が増すので積極的に休憩を取り適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では30分おきくらいに休憩をとる	積極的に休憩をとる。 激しい運動の場合は、30分おきに1回以上の休憩をとるとともに、水分・塩分を補給する。
WBGT 21~25℃ 注意 (積極的に水分補給)	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	運動の合間に積極的に水分・塩分補給を行う。
WBGT 21℃以下 ほぼ安全 (適宜水分補給)		通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分、塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	適宜水分・塩分補給を行う。